

世界の食料危機、日本農業はどうする!?

● 日本においても食料問題の深刻さはわからない

ここ数ヶ月の間、マスメディアの報道によって世界の食料問題がクローズアップされ、人々の関心はかつてないほど高まっています。多くの人が関心をもつのは大いに結構なことです。洞爺湖サミットが閉幕した後も、国民の食料問題に対する関心が薄れないよう、農業に携わる私たちは、さまざまな形で情報発信を続けていかなければならないと思います。

そこで今回のテーマとなる食料問題ですが、違和感を覚える人も少なくないのではないのでしょうか。それも当然です。日本における食料問題は、世界で起きている食料危機と

は性質が異なるからです。

皆さんもご承知の通り、日本の食料自給率は39%と先進国の中で最低レベルにありますが、所得水準が高いため、少くくらい値段が上がっても海外から食料を買い集めることができます。

自分が餓死するかもしれないという想像が働かないから、世界のどこどこで飢餓が深刻だとか、暴動が起きたといわれても、他人事でしかありません。私たちの身近で起きている食料問題とは、パンや麺類が値上げしたとか、バターが品薄になったとかいう類の話で、家計レベルの深刻さなのです。

あら、しやーねえ
また値上げ?
これってわが家の食料危機だわよね



● 今こそ農業の出番だ!! 農業の未来は可能性に満ちている!

7月に開催された洞爺湖サミットでも、食料問題の解決が議題となりました。目に見える成果があったのは輸出規制の撤廃です。日本の働きかけで声明に盛り込まれ、農産物輸出国のロシアやウクライナは、サミット直前に規制を撤廃しました。

しかし、サミットにおける声明は強制力をもちません。今後、世界の食料危機がさらに深刻化したとき、自国への供給よりも輸出を優先する国はあるのでしょうか。そのとき、食料供給の6割を海外に依存する日本はどうなってしまうのでしょうか?

日本の食の安全性は、日本が世界に誇る産業技術の一つです。国内はもとより海外の市場でも、質の高い日本の農産物への注目は年々高まっています。だからこそ、今、農業の出番なのです。国内農業の発展を促し、国内供給力を高める必要があるのです。

米の消費拡大、低コスト化、飼料米や米粉、植物樹脂といった新たな農産物需要の発掘など、日本農業には希望に満ちた可能性がまだまだたくさんあります。私たちは、これからも自信と誇りをもって農業に取り組んでいこうではありませんか!

す。今回のキャンペーン参加はその第一歩です。私たちはこのキャンペーンを通じて、遙か昔の祖先から脈々と受け継がれてきた米食文化のすばらしさを未来の子どもたちに伝えるために、今できることは何かということをご検討とともに考えてまいります。



朝9時までに食べる → 1日ジャキッ!

めざましごはん

井関農機が発信・発行するCMやカタログ、パンフレット、情報誌などに「めざましごはん」のロゴが掲載されていることにお気づきでしょうか? これは農林水産省が主催するキャンペーンで、朝ごはんの欠食改善や米を中心とした日本型食生活の普及・啓発を目的に、食品関係の企業・団体の協力を得ながら、官民挙げて活動を展開しようというものです。

井関農機がこのキャンペーンに参加するのは、米食文化の復活のために、そして日本農業を応援するために、農機メーカーとして貢献していきたいと考えてからです。

井関農機も

「めざましごはん」キャンペーンに参加しています

参加しています



米は他の主食と比べても断然経済的なんだね!

本紙では日本農業を応援する情報とメッセージをお届けしてまいります。ご期待ください。